

方程式(4)ナル結果ニ付キテハ別ニ Variable flow equation タル $\frac{\partial Q}{\partial t} = U \frac{\partial h}{\partial t} + h \frac{\partial U}{\partial t}$ ニ照合スル同様ノ結果ヲ得タリ

$\frac{\partial^2 Q}{\partial t^2} = 0$ ナル條件ハ $\frac{\partial Q}{\partial t}$ カ最大値ナル爲メノ必要條件ナリ故ニ最大流速ヲ得ル爲メノ條件ハ $\frac{\partial Q}{\partial t}$ カ最大値ナルヲ要スルコト明カナリ故ニ知ル水位ノ變動率ノ最大ナル時カ最大流速ニ相當スルコトヲ而シテ變動率ノ最大ハ水位曲線ヨリ直ニ求メラルヘキコトハ敢テ云フマテモナキカ一般ニ洪水時ノ水位曲線ニ於テ變動率 $\frac{dh}{dt}$ ノ最大ハ常ニ時間ニ於テモ高サニ於テモ最大水位ノ時ノ夫等ニ比シヨリ早ク又ハヨリ低ク起ルモノニシテ其場合ニヨリ區々ナレトモ大凡數十分乃至數時間早ク又ハ數寸乃至數尺低ク起ルモノナラントハ余輩ノ信セント欲スル所ナリ市瀬博士ハ不定流ニ關シテ多大ノ研究ヲ試ミラレタリ而シテ此最大流速ニ關スル余輩ノ私見ニ關シテ博士ハ如何ノ高見ヲ有セラル、カ余ハ本誌上此機會ニ於テ博士ノ高教ヲ乞ハント欲スルモノナリ(完)

工學博士 岡崎文吉

著者市瀬博士ノ不定流ニ關スル研究ハぐるんどげだんけんニ成レルモノ多シト信ス從ツテ其調査研究ニ多大ノ勞苦ヲ拂ハレタルコトヲ疑ハス記者ハ之ヲ公表セラレタル著者ニ對シ多大ノ感謝ヲ表セントス尙著者ハ其研究ニ係ル不定流ノ理ヲ推シテ之ヲ兒島灣ノ如キ逆流ノ場合ニ應用シタル細密ナル調査ヲ遂ケラレタリト聞クガ故ニ此機會ニ於テ著者ノ公式ヲ用ヒテ得ラレタル

1370

結果ト他ノ實測ニ基キテ實際ニ得ラレタル結果トノ比較照査ヲ行ハレタルモノヲ發表シテ吾人ノ參考ニ供セラレンコトヲ希望ス蓋シ庸ヲ得テ獨ヲ望ムノ嫌アルヲ免レスト雖モ斯界ノ利益ノ爲メニ其貪慾ノ罪ヲ寬恕セラレンコトヲ乞フ(完)

（以下は非常に淡く、ほとんど不可読な文字列が続く）